

キャベツに発生する病害虫

8月の農作業

■軟腐病

【特徴】

- 外側の葉だけが侵され、発病葉はとけてなくなります。
- 結球してから発生した場合は、株全体がベトベトにくさり独特のいやな悪臭がします。
- 灌水や降雨にともなう土壌のはね上がりによっても感染します。
- 気温の上昇とともに増加します。



軟腐病にかかったキャベツ

【対策】

- 肥料が多すぎると軟弱に育ち発生しやすくなります。
- 地表が乾きにくい場所では、うねを高くしたりマルチを使うなどはね上がり予防をしてください。
- 病気の株は、湿度の低い晴れた日に取り除いてください。



葉がベトベトに腐り悪臭を放つ

【防除】

- 直射日光が入らない下葉と茎の表面に、散布するのがポイントです。

適用農薬	希釈倍数	使用時期
Zボルドー(野菜類)	500倍	収穫前日まで

■カルシウム欠乏

【特徴】

- 石灰分(カルシウム)が不足していると発生しやすくなります。
- 外見はきれいでも、切った時に中の一部が茶色くなっていることもあります。
- 窒素やリンの過剰により発生することもあります。
- 葉の先ではなく両脇から症状が出ます。
- 土壌が乾燥した時にカルシウムが吸収できず発生しやすくなります。



内側の葉に出たカルシウム欠乏症

【対策】

- 窒素分の過剰施肥を避け、「畑のカルシウム」や「苦土セルカ」などカルシウム成分の肥料を入れてください。
- 土壌の乾燥しすぎも要注意です。



上位葉の生育が抑制される

裏面はシュンギクに発生する病害虫を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.352 令和2年8月15日発行

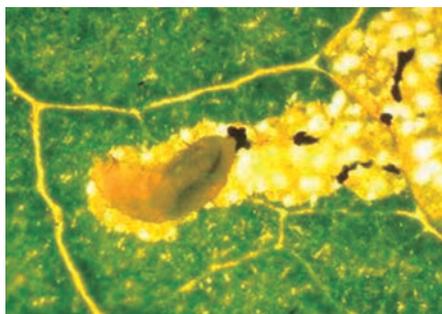
シュンギクに発生する病害虫

8月の農作業

■ハモグリバエ

【特徴】

- 幼虫が葉の内部を食べ進み、曲がりくねった白い筋が残り、成虫は葉に穴をあけ吸汁したり産卵するため白い小斑点が痕となって残ります。
- 非常に小さくて見つけにくいので、葉の食害痕に注意してください。



ハモグリバエの幼虫

【対策】

- 圃場内や周辺の雑草（特にキク科）が発生源となるので草刈り等除草をこまめに行ってください。
- 防虫ネットをべたがけまたはトンネルがけすると、成虫の侵入を防ぎ、防除効果が高くなります。
- 農薬は散布ムラのないよう丁寧に行ってください。



ハモグリバエによる食害跡

【防除】

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
アファーム乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内

■炭疽病

【特徴】

- 初期に発生すると、枯れてしまったり、茎頂部が侵されると、生長が停止します。
- 葉、茎、葉柄に褐色の円形～楕円形の病斑が生じ、ひどくなると病患部がくぼんで陥没してしまいます。



畑全体に広がった炭疽病

【対策】

- 連作は発生しやすいので避けてください。
- 湿度の高い圃場は発生しやすいので、排水を良くしてください。



炭疽病に侵された葉

【防除】

- 葉に黄色の細かい斑点が現れたり、先端が黒くなったときが防除適期になります。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内